

# 湊町の名所



「荒脛巾神社」の物語

赤井にある荒脛巾神社の由来をご紹介します。  
近江雅和著『アラハバキ神の謎』によると、アラハバキ族は産鉄族であり、その神に金山彦、金屋子神、天目一箇神などを祀るが、これらの神々はすべて同一神で、鍛冶神であるという。

赤井にある荒脛巾神社もその一社で、今日言われている由来によると、源義家朝臣東征のみぎり、ここに来るまでの途中、深谷地を脛巾を脱いで渡ってきたが、此の社で休憩をとり、いざ出立といふとき、ついその片方を置き忘れてしまった。そこでこの脛巾を神社に併祀し、社名も荒脛巾神社と改めたと伝え、祭神の金山彦命（かなやまひこのみこと）もいつの頃からか堀権神（しおつちのかみ）に替えられた。

赤井の集落の南には鍛冶屋敷という字名も残っており、猪苗代湖岸の中田浜は、昔、砂鉄の産地として知られたところ。東田面には金砂神社が祀られている。また西に山を越えると一貫地内にはまさに邪馬台国時代にまで遡る前期前方後円墳の堂ヶ作山古墳があるかと思うと、経路には物部守屋を祀る守屋神社などもある。会津の古代を考える上では、実に貴重な神社といえることができる。



## 経済産業省江島副大臣へ 「風力発電事業の認可」 しないよう要望書提出

湊区長会は8月27日  
共和地区側山頂に計画されている（株）イメージワンの風力発電事業が、土砂災害特別警戒区域指定地の起点にあたるとして、経済産業省を訪れ江島副大臣へ許可しないよう要望書を提出してきました。

計画では、大型風車5基、管理用道路（約5km）が計画されています。住宅地から約730mの距離で土砂災害区域の起点になっており相当量の盛土が想定されます。

昨今の記録的な豪雨災害が全国的に頻繁に発生し、7月3日には、静岡県熱海市伊豆山地区において、多くの尊い命が奪われた土砂災害が発生しています。

地域住民が後世まで引継ぐことのできる安全・安心な湊町の将来に向け、許可しないよう要望してきました。

要望活動には、小檜山昭一区長会長、斎藤光則下馬渡区長が参加しました。引き続き、事業計画の白紙を求めて運動の継続をしていきたいと思っています。



## 小野町より 地域づくり視察受け入れ

8月20日に、小野町副町長はじめ4名で、湊の地域づくりの方策と、行政とのかわりについての視察を受け入れました。小野町は湊と同様に過疎化少子高齢化が進んでおり、地域をどのように活性化させ、行政がどのように関わるべきか悩んでいるようでした。

湊地区地域活性化協議会設立時の裏話や苦労話、行政側の苦労話など、いろいろと話が出て活発な意見交換となりました。この活動が他地域にも広がってくれると良いですね。

## 湊の子が 湊を知る！ 中学校 連係授業

今年度も、湊中学校1年生に湊の自然・文化・歴史の授業を行いました。

湊の子供たちが、この湊に誇りを持ってもらい、知ってもらふことです。

当教育環境部会の、「住民が地域を誇れる」という目標の実現でもあります。

地域の皆さんも、是非地域を知る活動にご参加ください。



## 未来デザインワークショップ 報告会 参加！

7月17日に、稽古堂において、河東地区・北会津地区、そして湊地区合同で数年間に渡り議論されてきた、「公共施設の活用」についての報告会を行いました。

湊まちネットでは、公共施設有効活用法を市に提案してまいります。実現に向けて、引き続き取り組んでいきたいと思っています。



## 今年も開催します 赤井の大イチョウライトアップ

今年も11月6・7・13・14日に、「赤井の大イチョウライトアップ」を開催予定しています。

R294湊翔会は、6月20日に、町民の親睦を深めるべく、第1回湊町ゴルフコンペを開催しました。世代を超えて交流を図ることができ楽しいコンペとなりました。

また、皆様のご理解をいただき、コンペ費の一部を「みんなと湊づくりネットワーク」へ寄付させていただきました。

## 湊で ロボット配送実験！

TIS（株）が、地域連携で進めてきた、中山間地域ロボット配送実証実験が、6月～7月西田面地区を中心におこなわれました。

いろいろな技術メーカー、地域企業、そしてあの東京大学もそのプロジェクトに参加していました。

これが、実際に湊地区に役立つものになって欲しいですね。



## 湊の「鉄」文化シリーズ （その1）

7月15日と22日に、田代南遺跡の鉄滓と炭窯に関する実態調査を行いました。

結果、炭窯跡5基が確認されました。

会津若松市の埋蔵文化財包蔵地として追加登録されました。

炭窯が稼働していた年代は、近世で江戸時代と推定されています。連綿と受け継がれてきた木炭づくりですが、社会環境の変化により、大勢いた地区の炭焼き職人も最後の1人が、令和2年に操業を停止し、廃業せざるを得なくなりました。

今回、田代の佐藤春義さん所有の炭窯跡を修復し、再稼働して次の世代に技術や文化を伝えていきたいと思い、9月4日に炭窯小屋を作るため地鎮祭を行いました。